

所管課による評価①

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	かわさき新産業創造センター(KBIC)	評価対象年度	平成21年度
事業者名	・事業者名 財団法人 川崎市産業振興財団 ・代表者名 理事長 君嶋 武胤 ・住所 川崎市幸区堀川町66-20	評価者	産業振興部 新産業創出担当課長
指定期間	平成21年4月1日～平成26年3月31日	所管課	経済労働局産業振興部新産業創出担当

2. 事業実績

利用実績	施設内の入居可能な事務室は、全部で39室、広さは2,109㎡であるが、平成22年3月31日時点で35室、2,034㎡が入居者に利用されており、96.4%の入居率(面積)となっている。(なお、空室については平成22年3月31日に入居審査が行われ、4月に3部屋・60㎡の入居が決定している。)この1年間に退出企業に対する新規入居募集を6回行い、施設利用の促進が図られている。
収支実績	収入 指定管理料:6,069千円、利用料金収入:76,447千円、事業収入:419千円、 使用料・手数料収入:7,053千円 合計:89,989千円 支出 人件費・事業費:34,901千円、施設管理費:36,407千円 合計:71,308千円
サービス向上の取組	インキュベーションマネージャーの勤務日数を拡大し、入居企業に対するヒアリングや日常の情報交換により問題点を把握し、きめ細やかに対応するなど入居企業への支援を行っている。また、各種セミナーや技術講習会の開催、経営支援メニューの紹介、展示会・見本市への参加勧誘など、企業経営の安定に資する事業を数多く実施するなどサービス向上のための取り組みを行った。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	4	8
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	10	4	8
当初の事業目的を達成することができたか					
(評価の理由) インキュベーションマネージャーと所長により入居企業に年間350回余のヒアリングを積極的に実施し、入居者への支援に取り組んでいる。充実した支援メニューを着実に実施するとともに、研修・講習会でアンケートを実施して利用者のニーズの把握に取り組んでいる。また、交流会などを設けて入居者同士の交流の場を提供している。					
収支計画	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	7	5	7
		支出に見合う効果は得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	7	4	5.6
		収入増加のための具体的な取組が為されているか			
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	6	3	3.6
事業収支に関して適正な会計処理が為されているか					

実績	(評価の理由) 収入総額は、使用料・手数料のなかで大きなウェートを占める項目が電気・水道料金であるが、この収入は各入居企業の使用に応じて料金を徴収し、支払いを行っているため、平成21年度は景気の影響を受けて入居企業の電気使用量が大幅に減少(予算比5, 894千円)し、収入総額が予算を下回る結果となった。しかしながら、収入内訳では収入源の中心である利用料金(賃料)収入は予算を上回り(540千円増)、この特殊要因を除けば計画を上回る収入が確保されていると評価できる。支出内訳では施設管理費の節減に取り組んで効率化を進める一方で、事業関係経費を予算以上に支出して必要に応じた積極的な事業展開を行っている。収支計画における事業規模はコンパクトになったが入居企業の経済活動の影響によるところが大きく、収支では12, 611千円の黒字であることを勘案すると指定管理者の経営努力によりバランスの良い運営がなされていると評価できる。これは、高い入居率を維持できている点がこの結果をもたらしていると分析され、今後もKBICの強みである企業支援の能力を活用し、入居企業の支援を通じて入居率の維持と入居企業の経営安定を図ることが重要である。また、金銭管理・会計手続きについては適切であった。							
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8			
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか						
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか						
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	10	3	6			
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか						
	利用者の意見・要望への対応	業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか	10	5	10			
		利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか						
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)						
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか						
	(評価の理由) ものづくり基盤技術高度化促進のための研修業務や各種セミナーなど確実に履行しアンケートなどにより利用者ニーズの把握や研修事業への反映に取り組んでいる。また、入居企業への支援を手厚く行うためインキュベーションマネージャーの勤務日数を拡大し、所長を含めた3人体制で入居企業に対し350回余のヒアリングを実施するなど業況やニーズ把握に努め、指定管理者として情報の共有化と迅速な判断を的確に行った。この結果、各種補助金や金融機関の融資などの資金調達支援をはじめ多くの経営支援実績を挙げるなど、インキュベーション施設としての役割を十分果たしている。							
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	3	4	2.4			
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか						
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか						
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか						
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)				3	4	2.4
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか						
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか				3	4	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか						
環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	3	5	3				

	(評価の理由) 職員の勤務日数の拡大など利用者ニーズに応じた柔軟な人員配置を行うとともに、業務知識・施設管理に関する事項について定期的な研修を実施して情報の共有化をすすめ、事故・災害時における対応策など安全管理への取り組みを行っている。また、企業支援の課程で得た情報や重要資料等については厳重に管理を行い、マニュアルを含めた指示文書も整備されている。さらに環境対策として、施設のエネルギー使用量を把握するためのエコオフィス調査の実施や、一部の窓に省エネ複層ブラインド(二重化)を試行的に導入するなど、省エネルギーに努めている点が評価できる。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	15	4	12
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	(評価の理由) 施設・設備の保守管理は、再委託事業者との連絡・連携により万全に執り行われている。施設内も非常に清潔で、外溝の通路や植栽などごみもなく、きれいに管理されている。施設アンケートを実施し、利用者から高い評価を得ている。				

4. 総合評価

評価点合計	80.8	評価ランク	B
-------	------	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

かわさき新産業創造センター(KBIC)は、個人の創業、企業の新たな事業分野への進出及び企業を支える基盤技術の高度化を促進するために設置された施設である。当該設置目的を果たすため、単に事業者に対して新事業事務室を提供するだけでなく、数多くのヒアリングを通じて得た入居企業の詳細な情報を基に、高いレベルでの様々な支援が行われていることは高く評価することができる。

また、市内企業のものづくり基盤技術の高度化に向けた支援についても、充実した研修項目をそろえるなど評価することができる。また、平成21年度は新しい取り組みとして創造のもり全体で青少年向けにもものづくり啓発事業を実施し、創造のもり地区に対する地域の理解を深める取り組みも行われた。

特に、新事業事務室の利用状況において、引き続き高い利用率を維持し、利用料金収入が予算額を上回っていることは、指定管理者の経営努力の成果として評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

入居企業に対する支援については、入居企業の更なる経営安定、技術力向上を図るために現状の高いレベルを維持するよう指導する。また、ものづくり基盤技術高度化に資する研修等については、更に広報活動に力を入れ受講者の増加を図り、市内ものづくり企業のニーズに対応した講座を充実させる必要がある。青少年向けものづくり啓発事業は平成21年度に初めて実施し成功を収めており、今後、入居企業の支援だけではなく、地域からの理解を深める活動を継続して創造のもり全体の価値を高める取り組みが必要である。施設の管理運営面では、平成21年度は創造のもり周辺の整備に伴い駐車スペースの変更等が行われたが、次年度以降も施設周辺で工事が行われる計画があることから、安全管理について十分な配慮・対応するよう指導する。